

## 現行計画における二酸化炭素排出量及び

### 増減要因の分析の修正について（案）

市域の二酸化炭素の排出量の算定には、経済産業省資源エネルギー庁の公表する「総合エネルギー統計」及び「都道府県別エネルギー消費統計」を主に用いていますが、最新の公表で推計方法等が変更され、1990年まで遡り公表値が改訂されました。

これに伴い、二酸化炭素排出量の算出方法について、令和3年7月28日に行われた令和3年度第2回審議会で御審議いただき、「2018年度までの排出量は現行の手法により算定し、2019年度は新しい手法により算定する」という、2つの方法に分けて検証することについて承認をいただいたところです。

しかしながら、次のように、より分かりやすい比較の方法を求める御意見も第2回の審議会内でいただいております。

- ・旧計画の推計手法と新しい推計手法を並べて比較するのは、かなり分かりにくい。
- ・総合エネルギー統計等は3年程度で改定されており、そのたびに数字が変わっている。それはそういうものとして割り切って、どちらかに統一してデータを示した方が良いのではないか。
- ・過去に出した報告書と数字が違うとの指摘に対応するため、使用しているデータが計算方法を変えたため、と一言書いておけばよいのではないか。

また、令和3年12月6日に令和3年版流山市環境白書が発行され、環境白書との整合性を図る必要が生じました。これらのことから、排出量について再算定を行いたいと考えます。

なお、再算定にあたっては、現行計画の推計手法により算定するものとし、最新の統計値を用いて算出・検証を行うものとします。

（「係数による補正」から「最新の統計値による再算定」に変更を行うものです。）

※環境審議会の資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

新

## 第2章 市域の排出量と削減目標

### 1. 市域の二酸化炭素排出量の現況

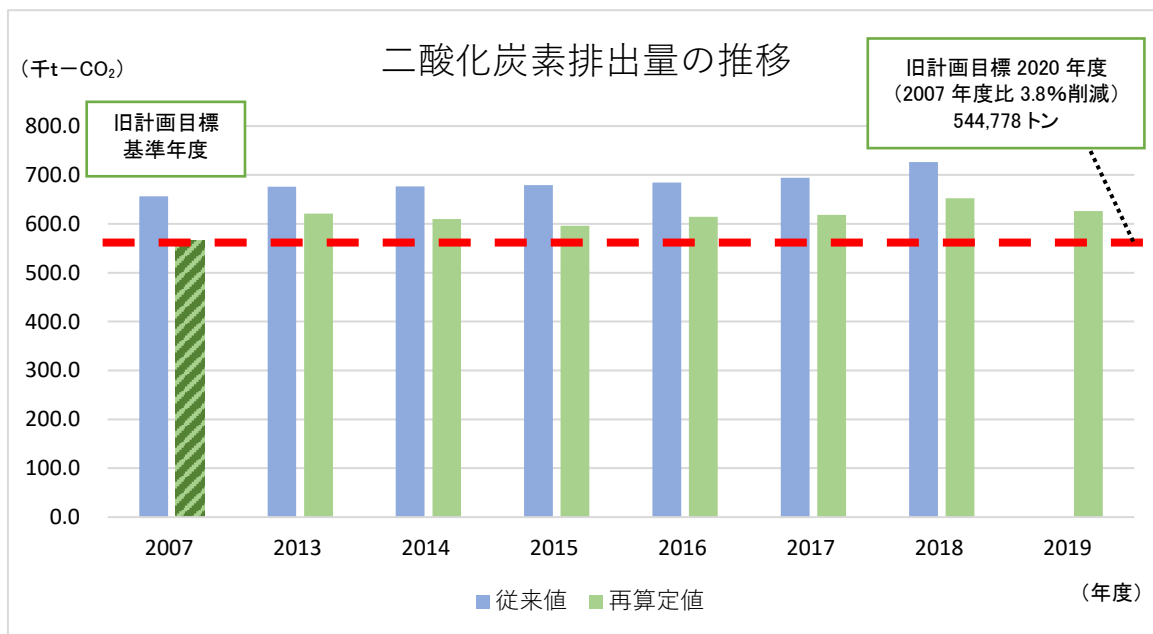
#### (1) 総排出量

市域の二酸化炭素の排出量の算定には、経済産業省資源エネルギー庁の公表する「総合エネルギー統計」及び「都道府県別エネルギー消費統計」を主に用いていますが、最新の公表で推計方法等が変更され、1990年まで遡り公表値が改訂されました。

これに伴い、新たな都道府県別エネルギー消費統計を用いて算定した市域の二酸化炭素の排出量と、これまでに算定した二酸化炭素の排出量との比較が困難になったことから、改めて最新の統計値を用いて算出・検証を行いました。

再算定の結果、従来値より再算定値は低く算出されましたが、増減の傾向に大きな相違はありませんでした。温室効果ガス排出量の増減の要因として、2011(H23)年3月に発生した東日本大震災とその後の原子力発電所の停止などが大きな影響を与えました。また、流山市単独で見ると、2005(H17)年に開業したつくばエクスプレスの沿線開発に伴う人口の増加や、サービス業等の拡大により、特に民生家庭部門と民生業務部門が増加傾向にあるといえます。

旧計画の目標である2020(R2)年度までに2007(H19)年度比3.8%削減(544,778トン)の達成は困難である見込みですが、2019(R元)年度は人口増加の中にあつて、前年度と比べ4.0%の減少となりました。



※環境審議会の資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

旧

## 第2章 市域の排出量と削減目標

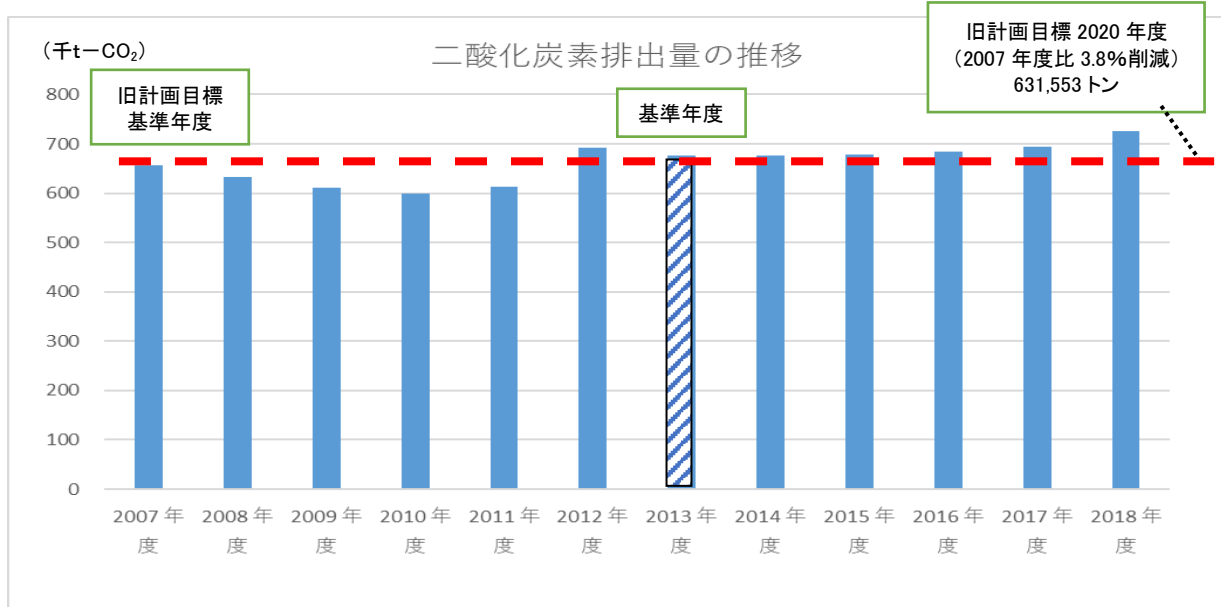
### 1. 市域の二酸化炭素排出量の現況

#### (1) 総排出量

市域の二酸化炭素排出量は、2011（H23）年度までは、旧計画の短期目標である「2012（H24）年度までに 9%以上削減」に向け順調に推移していましたが、2012（H24）年度には逆に基準年度よりも 5.4%増加となりました。その後、2013（H25）年度から 2018（H30）年度までは微増を続けています。

この間にわが国では、2008（H20）年のリーマンショック等に始まる景気の落ち込みや 2011（H23）年 3 月に発生した東日本大震災とその後の原子力発電所の停止などが温室効果ガス排出量の増減に大きな影響を与えました。流山市単独で見ると、2005（H17）年のつくばエクスプレスの開業とその後の沿線開発、またこれに伴う人口の増加やそれに伴うサービス業等の拡大により、特に民生家庭、民生業務部門が増加傾向にあるといえます（部門別排出量は○ページ参照）。

2018（H30）年度の総排出量は、旧基準年の 2007（H19）年度比並びに本計画の基準年の 2013（H25）年度比において増加傾向となっており、計画目標の達成は難しい状況にあります。



※環境審議会の資料です。審議によって  
内容やデータ等が変更となる可能性が  
ありますので、閲覧目的以外での資料の活  
用等にはご注意ください。

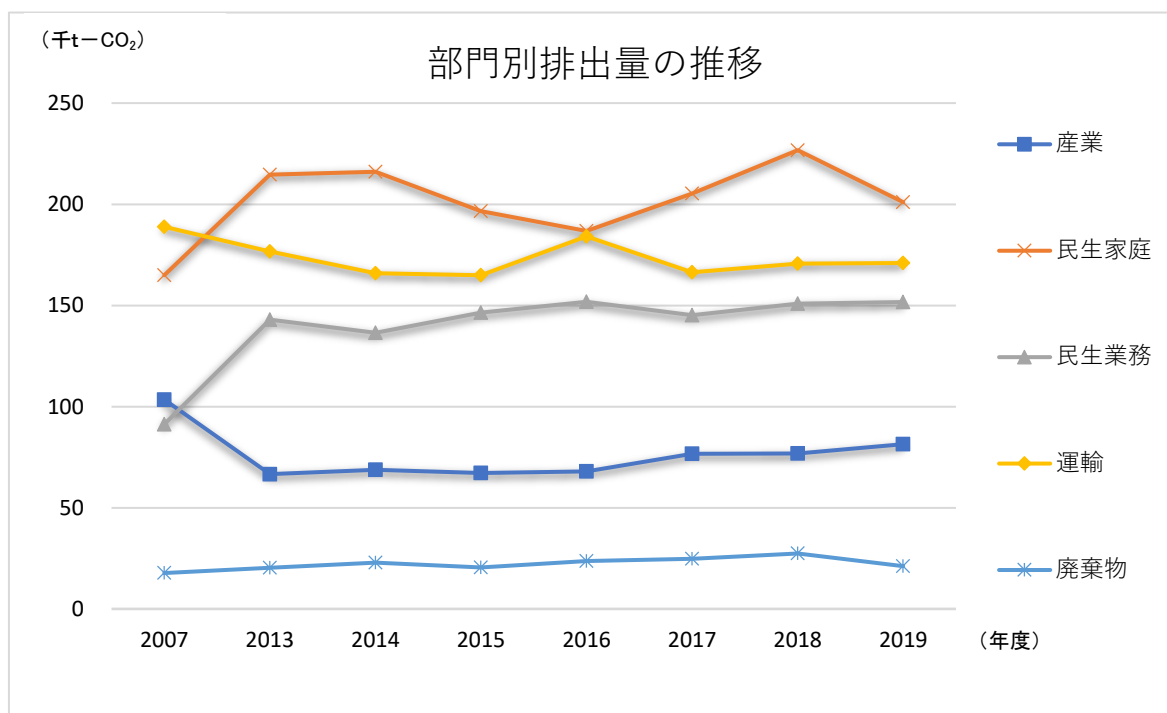
新

## 【二酸化炭素排出量の推移】

部門		旧基準年度	基準年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
		2007 年度	2013 年度						
産業	従来値	123.0	63.8	68.0	67.0	70.7	76.1	76.3	
	再算定値	103.5	66.6	68.7	67.2	68.0	76.7	76.9	81.5
民生家庭	従来値	186.1	229.6	230.1	229.1	207.0	226.5	242.0	
	再算定値	165.0	214.6	216.1	196.7	186.9	205.3	226.7	201.1
民生業務	従来値	140.8	184.2	187.7	196.3	196.9	199.6	209.0	
	再算定値	91.3	142.9	136.5	146.4	151.8	145.2	150.9	151.6
運輸	従来値	188.8	178.0	168.0	166.1	185.7	167.6	171.5	
	再算定値	188.8	176.7	166.0	164.9	184.1	166.4	170.7	171.0
廃棄物	従来値	17.7	20.3	22.8	20.5	23.7	24.8	27.4	
	再算定値	17.7	20.3	22.8	20.5	23.7	24.8	27.4	21.1
合計	従来値	656.5	675.9	676.5	679.0	684.1	694.6	726.1	
	再算定値	566.3	621.1	610.1	595.7	614.5	618.3	652.7	626.3
(2013年度比)		—	—	98.2	95.9	98.9	99.5	105.1	100.8
(2007年度比)		—	109.7	107.7	105.2	108.5	109.2	115.2	110.6

## (2) 部門別の排出量

流山市の部門別排出量は、民生家庭、民生業務部門が長期的には増加傾向にあり、運輸、産業部門は2013（H25）年度からほぼ横ばいとなっています。



※環境審議会の資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

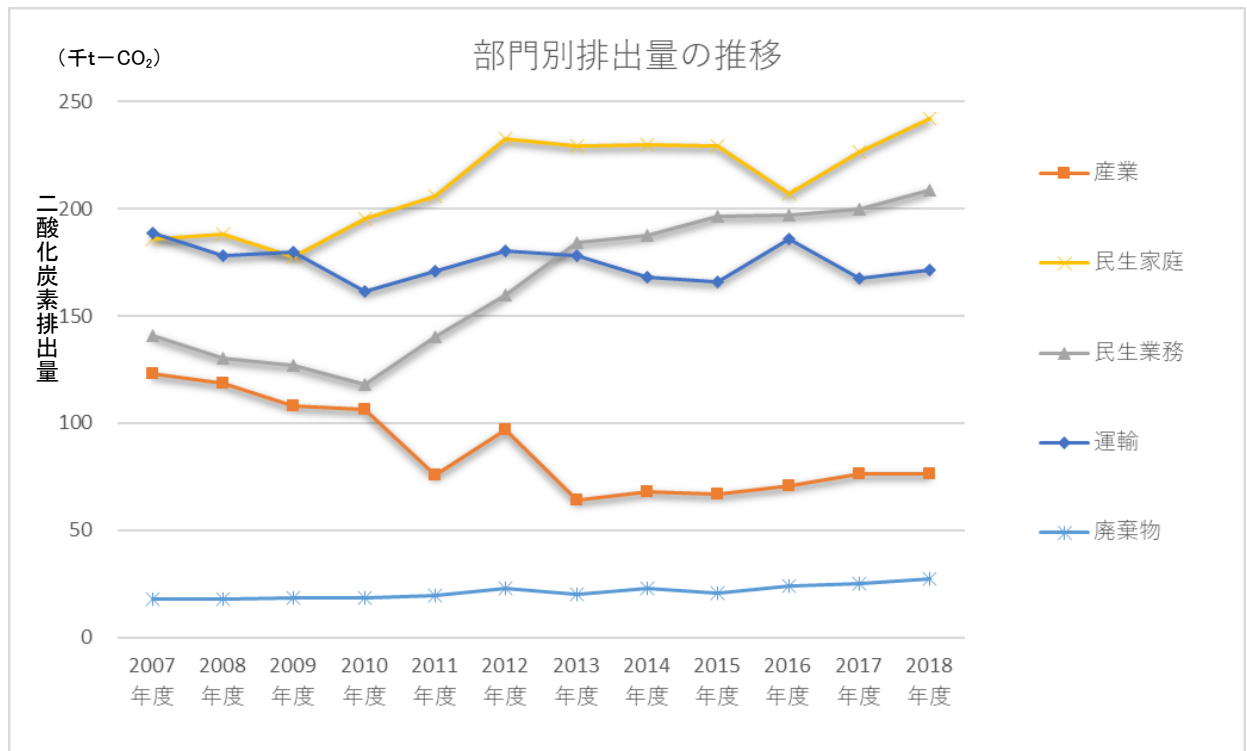
旧

(千t-CO<sub>2</sub>)

	2007 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
産業	123.0	63.8	68.0	67.0	70.7	76.1	76.3
民生家庭	186.1	229.6	230.1	229.1	207.0	226.5	242.0
民生業務	140.8	184.2	187.7	196.3	196.9	199.6	209.0
運輸	188.8	178.0	168.0	166.1	185.7	167.6	171.5
廃棄物	17.7	20.3	22.8	20.5	23.7	24.8	27.4
合計	656.5	675.9	676.5	679.0	684.1	694.6	726.1
(2013年度比)	旧基準年度	基準年度	100.1	100.5	101.2	102.8	107.4

## (2) 部門別の排出量

流山市の部門別排出量は、民生家庭、民生業務部門が長期的には増加傾向にあり、運輸、産業部門は横ばいとなっています。

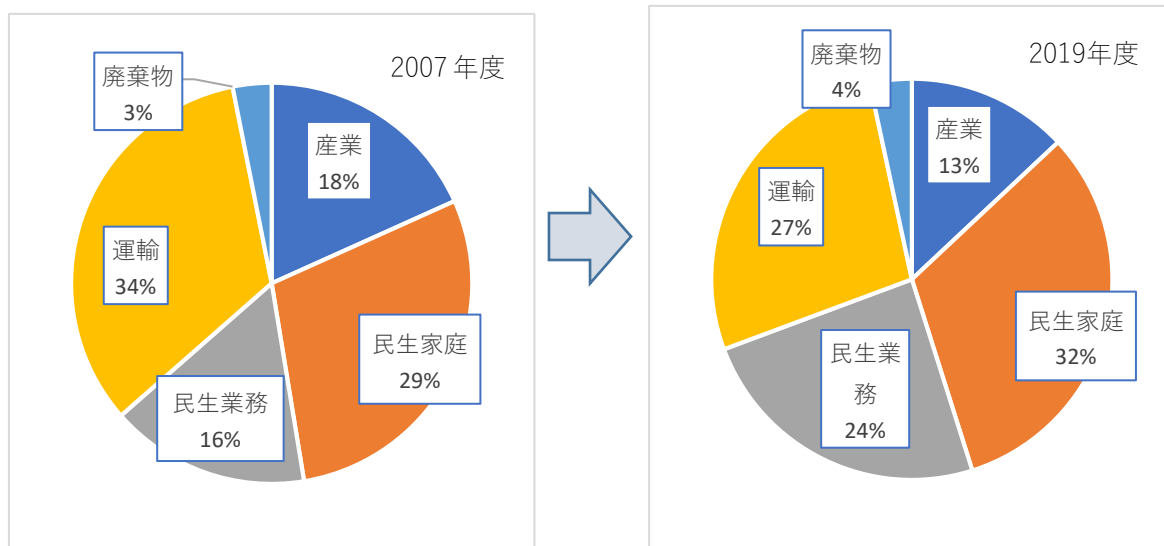


※環境審議会の資料です。審議によって  
内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

新

2019（R1）年度の部門別の比率では、民生家庭部門が32%と最も多く、運輸部門27%、民生業務部門24%と続き、産業部門は13%、廃棄物部門は4%となっています。運輸部門が大きく減少した一方で、民生2部門はいずれも増加しており、依然として2部門合計で全体の約6割を占めています。

【2007年度と2019年度の部門別排出量の割合】



※環境審議会の資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので、閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

旧

2019 (R1) 年度の部門別の比率では、民生家庭部門が 33%と最も多く、運輸部門 28%、民生業務部門 24%と続き、産業部門は 12%、廃棄物部門は 3%となっています。産業部門が大きく減少した一方で民生 2 部門はいずれも増加しており、依然として 2 部門合計で全体の約 6 割を占めています。

【2007 年度と 2019 年度の部門別排出量の割合】

